

平成25年1月8日  
環境部地域エネルギー対策担当

### 第3回 杉並区地域エネルギービジョン懇談会 議事要旨

日時	平成25年1月8日(火)18:30~20:30
会場	杉並区役所中棟6階 第4会議室
出席委員	五十音順、敬称略(◎印は座長、○印は副座長) 浅岡 八枝子、石井 敏康、遠藤 雅晴、◎柏木 孝夫、 小林 義雄、鈴木 伸隆、鈴木 廣美、高口 洋人、西田 穰、 八方 淑夫、○前川 耀男、柳井 薫
議事	1 第2回杉並区地域エネルギービジョン懇談会議事録(案)の確定 2 (仮称)杉並区地域エネルギービジョン中間のまとめ(案)について 3 その他
配布資料	資料 (仮称)杉並区地域エネルギービジョン中間のまとめ(案) 参考資料1 区民意見交換会実施要領 参考資料2 区民アイデア募集実施要領 参考資料3 区民・事業者アンケート実施要領 資料番号なし 第2回杉並区地域エネルギービジョン懇談会議事要旨(案)

#### ■開会

傍聴については、4名の申し出があり、委員一同の了承を得た。また、今回初出席となる鈴木(廣)委員ならびに八方委員から自己紹介をいただいた。

#### ■議事

##### (1) 議事録の確定

第2回杉並区地域エネルギービジョン懇談会議事録案について、了承を得た。

##### (2) (仮称)杉並区地域エネルギービジョン中間のまとめ(案)について

資料について事務局から説明を行い、その後、各委員からの意見を聴取した。

## 【説明概要】

中間のまとめ（案）は、第一回、第二回の懇談会で各委員からの意見や論点の整理をもとに、区で作成したものである。構成としては、目次のとおり、はじめにビジョン策定の背景と目的、次に、目指す将来像、続いてエネルギー施策の現状の問題点とそれに取り組む視点、考えられる具体策とイメージと、参考資料となっている。

まず、1ページのビジョン策定の背景と目的だが、今までの区の省エネ・再生可能エネルギーの普及の取組みに加えて、東日本大震災を契機に明らかになった課題や今後のエネルギー政策のあり方を踏まえ、区民の暮らしの快適性と安全性を確保しつつ、環境にやさしいまちを創るため、杉並区の地域特性を考慮したエネルギー政策の基本的な方向をまとめるものである。

ビジョンの計画期間は、25年度から総合計画の終期に合せ、平成33年度としている。

次に2、3ページは、地域エネルギービジョンのポイントとして、まちの将来像を、「災害に強く快適で環境に優しいエネルギー創造都市」とし、2ページに平時のまちの姿として、「普段から災害に備えのある安全で快適なまち」、3ページに非常時の姿として、「いざ大規模災害が起きた時にエネルギーで困らないまち」をつくることをあげている。

2ページの「普段から災害に備えのある安全で快適なまち」のイメージは、家々や区の施設、病院や福祉施設などに太陽光発電など再生可能エネルギーや家庭用燃料電池、コージェネレーションや蓄電池などの導入や清掃工場のごみ焼却発電の余剰電力や廃熱の利用を進め、地域分散型エネルギー社会をめざすもので、特筆すべき事項を吹き出しに記載している。

まず、時計回りに右上の水色の吹き出しの「停電しても太陽光発電やコージェネ、蓄電池が電気を供給する安心なまち」だが、普段からいざという時を意識して、区の施設や病院・福祉施設への太陽光発電やコージェネなどの自家発電、電気自動車を含めた蓄電池等の配置、防災公園への太陽光発電・蓄電式LED街路灯の設置などを行い、快適性と安全性の両立を図るものである。

次に右下のベージュの「住宅やまち単位で、エネルギーを無駄なく効率的に活用するまち」の部分では、情報通信技術とエネルギーを組み合わせ、エネルギー消費が無駄なく最適な状態となるよう制御するとともに、住宅に様々な機能を付加し、誰もが安心して暮らせるスマートコミュニティをつくることをあげている。

左下ラベンダー色の吹き出しの「発電余剰電力や廃熱を有効活用して、快適な施設運営ができるまち」の部分では、建替えにより発電力が増強される杉並清掃工場の発電余剰電力を新電力の東京エコサービスを通じた売電を推進・利活用することや廃熱を地域区民センターやプールなどに活用して、効率的で快適な施設の運営を図るものである。

最後の左上の吹き出しの「大規模電力事業者に頼りすぎないように特定規模電気事業者、PPSから各施設に安価な電力を供給しているまち」の部分では、区立施設に新電力からの電力を導入することにより、エネルギー供給分散化と安価な電力供給を図るものである。

3ページは、非常時の対応として「いざ、大規模災害が起きた時にエネルギー

で困らないまち」を将来像とし、イメージ図として、上段に、災害時拠点施設に自家発電や蓄電機能を強化し、いざという時に、避難者が情報を得ることができ、照明のある施設で安心して過ごせるなど、区民生活が困らないようバックアップできるまちを、下段には、病院や福祉施設の発電・蓄電機能の強化により、災害弱者の安心・安全を確保するまちをつくることをあげている。

4 ページには、エネルギー施策の現状の問題点を3点まとめている。まず、現段階では自前で確保できるエネルギーがわずかしかないこと、自然条件から見て利用に適した再生可能エネルギーは太陽光発電に限られること、さらなる効果的な省エネ・省資源のための仕組みや情報の不足の3点である。

それに取組む視点として、5 ページに住宅都市と言う特性を活かしたエネルギーの創出と効果的活用を3点あげている。

これは論点の整理の際に、皆様の議論を3つの分野に区分したものをもとにして、取組みの視点とその内容を記載している。

これらの取組みの視点と、○で囲んで記載している創エネ・省エネ・蓄エネの取組みにより、『誰もが、いつでも、安心して快適に暮らせるまち すぎなみ』をつくり、環境・エネルギー政策の推進による住宅都市としての「杉並」ブランドを確立して行くことをめざすものである。

6 ページからは、3つの取組みの視点から考えられる取組みとそのポイント、イメージを記載している。

一つ目の視点である「杉並産のエネルギー創出」として、ポイントを5点あげている。

杉並の地域特性に合せた省エネ、住宅の屋根の活用を中心とした再生可能エネルギーや化石エネルギーの効率的な利用促進、災害時の安定的なエネルギー供給と節電・電力使用のピークカット対策の推進、杉並清掃工場のごみ焼却発電余剰電力の新電力の東京エコサービスを介した売電や廃熱の活用推進をポイントとしている。

下図は、ホームエネルギーマネジメントシステム(HEMS)の導入により、エネルギーの見える化を進めた省エネ型の生活の一部をイメージしている。

7 ページは、二つ目の視点である「スマートコミュニティづくりの推進」として、ポイントを4点あげている。

スマートコミュニティづくりの先導モデル事業の推進、建築物や街区のスマート化のための仕組みづくり、公共機関や電気自動車等の利用の推進、特定規模電気事業者・新電力の一層の活用の4点である。

下段には、創エネとして太陽光発電や太陽熱利用、家庭用燃料電池を活用し、蓄エネとして蓄電池や電気自動車で蓄電を行い、省エネとして省エネ家電や建物自体の省エネ化、HEMSにより省エネを進めるスマートハウスのイメージ図、8 ページの上段には、一定の街区でエネルギーと情報通信技術を組み合わせ、エネルギー使用を最適化する省エネのまち スマートコミュニティのイメージ図、下段に協働によるまちづくり施策と連携したスマートコミュニティづくりのイメージ図をあげている。

9 ページには、三つ目の視点である区民へのわかりやすい情報提供と自主的な参加促進のための仕組みづくりのためのポイントを3点あげている。わかりやすい情報提供や啓発事業の推進、区民や地元事業者が自主的に参加でき、恩

恵を享受できる事業モデルの仕組みづくり、先進的な取組みに関する情報発信やインセンティブ付与である。

下段には、情報提供の例として環境・エネルギー関連施設の現地見学会、10 ページには、区民や地元事業者が自主的に参加でき、恩恵を享受できる事業モデルの例として、自宅に太陽光発電を設置しなくても太陽光発電の普及に参加・貢献できる仕組みとして市民出資型ファンドのイメージ図をあげている。

11 ページからは参考として、第 1 回資料として、配付した杉並区の地域特性の抜粋、再生可能エネルギーの賦存量及び利用可能量の抜粋、14 ページに国、都のエネルギー政策の動向を記載している。

政権交代に伴い、今後、国のエネルギー政策の見直しも行われる見込みのため、今後の動向を注視するが、杉並区が普段から災害に備えのある安全で快適なまち、いざ大規模災害が起きた時にエネルギーで困らないまちをめざすことは、国の政策の方向と大きく乖離することはないものと考えている。この点は、後ほど、座長から最新の国の状況を教えていただきたい。

最後の 15 ページに主な用語の説明をあげている。

今後、中間のまとめ（案）をもとに区民意見交換会や区民・事業者アンケートを予定しているので、委員の皆様の忌憚のない意見をいただきたい。

座長	最終的には、中間まとめに文章を加えたような形になるのか。
事務局	最終報告書は文章化し、アンケート結果の掲載やイラストの差し替え等を行う。
座長	中間まとめは、ビジョンの方向性をわかりやすくイラスト等で示した物と考えて良いか。
事務局	そのとおりである。
C委員	<p>狭義のエネルギー問題についてまとめられているが、地域エネルギービジョンの目的は、都市の低炭素化や地球温暖化対策だと思われる、交通や緑などの取り組みも必要ではないか。</p> <p>取り組みの視点(p.5)には、省エネ、創エネ、蓄エネの3つがあるが、すべての区民・事業者が取り組みやすいのは省エネである。省エネを大きな柱としてはどうか。</p> <p>家庭、中小企業、公共施設など、主体によってできることや、やるべきことが異なるので、主体別の具体的な施策があった方が取り組みやすいと思う。</p>
座長	エネルギーと環境は一体化している。CO2、緑、交通、社会システムなどに広げたまとめから、エネルギーに特化していくような

	<p>プロセスがあるとわかりやすいのではないか。</p> <p>また、即効性のある省エネから始めて、供給サイドの再生可能エネルギーなどの創エネを行うなど、区民がすぐできることを強調し、メリハリをつけるとよい。</p>
B委員	<p>区民参加については、具体的な取り組みなどの部分で書かれているが、コンセプトの部分に区民参加が出てきても良いのではないか。現状の問題点(p. 4)やエネルギー施策の今後のあり方(p. 1)に出てきても良いと思う。</p>
座長	<p>区民は与えられるばかりでなく、主体になりうるというコンセプトを出せると良い。</p>
I委員	<p>杉並区は住民意識が高いので、区民参加を強調すべき。私たちは電力を自由に使用できるとは限らないということを今回の震災で学んだ。p. 1に皆で考えてエネルギービジョンをまとめていくという考え方を示すことも重要ではないか。</p> <p>ここで示されている省エネは、機器によるものが多い。省エネにも住まい方や断熱など様々な切り口がある。それらを含めて省エネ、創エネ、蓄エネを柱としてはどうか。</p> <p>用語（エコキュートとヒートポンプ、エネファームと燃料電池など）を統一した方が良い。</p>
座長	<p>区の報告書なので、公に相応しい用語に統一する。</p> <p>省エネにもハードとソフトがある。区民参加はソフトの部分が大きい。どのように記載するか検討していただきたい。</p>
H委員	<p>Ⅲのポイント1の①(p. 9)にある「『新しい公共』支援モデル事業」という表現が区民にはわかりにくい。</p> <p>市民出資型ファンド(p. 10)は、杉並区らしさがあり、区民参加をさらに発展できそうな魅力的な案である。</p>
事務局	<p>「新しい公共～」が何を指しているのかわかるように、表現を工夫する。新しい公共支援モデル事業は、東京電力、ガス、NPO団体、区が共同で東京都のモデル事業に認定され、さまざまな事業を行っている。区民が区民に伝える、杉並らしい啓発事業のあり方であり、</p>

	今後広げていくことを考えている。
座長	<p>区民に分かりやすい記述や説明をすることが必要である。</p> <p>都が太陽光発電に関するデータをオープンにするような情報システムを公共インフラとして整備していくようである。それと連動する方法もある。</p>
F 委員	<p>商店街ができる対策として、LED街路灯の設置が進んでいる。また商店街の商店は、建物規模が小さいが、屋上に太陽光発電を設置しているところもあり、近隣にマンションが建築されることも多いので、その屋上に太陽光発電機器を設置すれば、普及していくのではないか。</p> <p>区民が簡単にできる省エネは、LED照明器具への変更ではないか。区の助成金を受けて太陽光発電を設置できるのは、区民の一部であり、誰でも参加できるファンド等を推進していくのは良いと思う。</p> <p>地元業者が区内の住宅地に戸建住宅を複数まとめて建設することが多く見受けられる。戸建住宅建設の際には太陽光発電を設置するようにお願いしておけば、自ずと区民参加型で普及していくのではないか。太陽光発電機器は、金額がかなり高いが、新築時に導入することで、割高感が抑えられると思う。</p>
座長	<p>大規模量販店に商店街が疲弊しているように見受けられる。専門店の集合体である商店街同士で連携するのか、大規模量販店と連携するのかなど、エネルギービジョンを核にして商店街活性化にどう繋げていくか考えはあるか。</p>
F 委員	<p>大規模量販店は広い屋上を活用して、太陽光発電を設置することも考えられる。商店街と大規模量販店は性質が異なるが、今後連携も必要になってくるのではないか。</p> <p>荻窪では再開発が進められると聞いている。そのような地区をモデル地区とし、商店街と大規模量販店が融合してスマートシティをつくるというプランがあっても良い。</p>
A 委員	<p>区民参加を全面に出すということには同意見である。</p> <p>わかりやすくという観点からいうと、「I 杉並産エネルギーの</p>

	<p>創出」(p.6)に何故省エネが入っているのか、わからない人もいる。伝え方に工夫が必要ではないか。</p> <p>「I 杉並産エネルギーの創出」(p.6)の②に「LED照明」とあるが、「高効率照明」としておいた方が良いのではないか。ビジョンのローリングがあれば良いが、計画期間が平成33年度までであり、その間に技術が進歩する可能性がある。</p>
座長	<p>商用化されて、これから伸びていくのはLEDだと思われるが、「LED等の高効率照明」など表現を検討していただきたい。</p>
E委員	<p>清掃工場から区立施設へ熱を供給し、発電した電気については、東京エコサービスを通して区立施設へ供給しており、中間まとめの内容については問題ない。</p> <p>東京エコサービスでは、来年度の小中学校への供給をこれまでの2倍にすること目標に掲げているようであるが、事業体の経営とユーザーの利益がマッチングするかが課題である。</p>
L委員	<p>他都市でもエネルギービジョンの策定をしていると思うが、杉並区とするからには、杉並区としての特徴あるものにした方が良く思う。市民出資型ファンドなどを強調し、また緑に関係するような取り組みなどを入れて、杉並区の特徴を打ち出せるとより良くなるのではないか。</p> <p>企業などは、目標などの数値が落とし込まれていた方が、それに向けて取り組んでいけると思う。</p>
座長	<p>台数などの目標値だけではなく、キャッシュバランスなども含めて投資意欲が湧くようなものも示していけると良い。</p> <p>機器を導入しただけでは思ったような効果は出てこない。地元商店街などと連携して、10年、15年のライフサイクルでケアする体制が必要である。</p> <p>杉並区は住宅地であり特徴がない。ビジョンに特徴を持たせるには、社会実装をやっていく必要がある。いくつか地区を指定して規制緩和を行い、スマートシティをつくっていくことが、杉並区の意志、決断力になっていくのではないか。</p>
副座長	<p>現時点で目標値を設定するのは難しいが、目標とする再エネや省エネのレベルなどを懇談会を通して位置づけてはどうか。</p>

	<p>(p.9) 区民参加については表記が中途半端である。「区民主体による地域分散型エネルギー社会の実現」などとしてはどうか。</p> <p>(p.4) 「エネルギー施策の現状の問題点と取り組みの視点」とあるが、「エネルギーを取り巻く環境と取り組みの方向」程度にして、最初から施策に絞る必要はないのではないかと。</p> <p>(p.2) 事前に見せていただいた資料案の「まちの将来像」には区立学校にコジェネや蓄電池の絵が描かれていたが、本日の資料からは消えている。蓄電池の絵などは描いておいても良いのではないかと。</p>
事務局	<p>夢を持って具体的な内容を書いていたが、まだ内容を詰められていない状況であり、中間まとめでは現時点で示せるものを書いている。今後、委員の皆さんやアンケートなどから頂いた意見を踏まえて内容を詰めていきたい。区民の方々との意見交換会やアンケートを実施していくので、その内容も含めながら具体的に数値目標も提示できるよう検討を進めていきたい。</p>
座長	<p>夢は書いておいて、まずは10年間の第1フェーズでリアリズムがある取り組みを実施するなど、表現を考えてはどうか。その際に場所の特定くらいはしておいた方がよい。役所としてリアリズムがある部分をきちっと書けば良いと思う。</p>
副座長	<p>全体の整合性と現状の合理性を突破していくためには、懇談会もバックアップしていかななくてはならない。夢と空想は違う。夢は実現可能性を踏まえたものである。夢は出しておき、それに向けて現状で、できることを着実にやるべきである。</p>
I 委員	<p>現政権は、原子力を含めたエネルギーについては、10年間腰を据えて方向を検討することとしている。エネルギー問題は、時間をかけて数値を決めていくことも必要である。</p> <p>EUでは、コジェネ普及のため昨年11月に法律ができた。各国で法律をつくり、まず賦存量を調べることを法制化した。次に目標設定させ、実現に向け議論というステップを示している。このようにステップを明確にして議論を進めると効果が期待できる。</p> <p>国の方向が決まっていない中で、区が9年先の数値を作るのは難しい。いつまでに何を決めて、何を実施していくのかというステッ</p>



	<p>プを示す方法もある。</p>
座長	<p>本ビジョンの今後のプロセスや方針はどのようになっているのか。</p>
事務局	<p>区がこれから策定するエネルギー政策に対してご意見を頂き、政策の取りまとめを今年の6月までに行う。区では、区政全体の計画があり、その中のエネルギー分野の中で3年間実施することを、具体的な数値で含めて示し、財政的な裏付けをもって計画している。その他は、毎年度の取り組みを予算化していく。議会が関与するのは毎年度の予算化の部分である。エネルギー政策の検討結果については議会に報告する。また、条例制定や特定の規制をかける場合は、議会に諮る必要がある。</p>
K委員	<p>今回の資料を事前に送付いただき2回ほど読んだが、内容をきちんと理解することは難しかった。</p> <p>3.11以降、家庭でできる節電を考え、使っていない家電は消し、照明をLEDに変えたが、夜中に消せない家電が多いことに気がついた。そのようなものについては、メーカーに対策を考えていただきたい。</p> <p>高齢になってくると、文字を読むのが億劫になる。一人一人が協力するという気持ちになるように、わかりやすく周知できると良いと思う。</p>
J委員	<p>スマートシティという言葉が使われているが、言葉からイメージが湧かない。火災報知機などのように義務化されれば、話題になると思うが、スマートシティは義務化されるものではない。盛り上げるためには、直接に見る機会を増やし、興味を持ってもらうことが必要だが、そのための仕組みも必要である。区民参加を推進するのであれば、全区民に対するインセンティブがほしい。</p> <p>また、ビジョンには夢がほしい。夢を見ながら実現に向けた杉並らしいものが盛り込めると良い。</p>
座長	<p>参加することのインセンティブとは何か。それがないと参加意欲は得られない。どういう形のインセンティブが与えられるかを含めて考える必要がある。</p>
B委員	<p>スマートシティという言葉には、生活感がないとよく言われる。</p>

	<p>実現すると自分の生活がどう変わるか理解されていない。</p> <p>ビジョンで一番大事なのは、まちの将来像である。杉並区でどのようなまちを実現していくのかというイメージを、災害以外にも増やしてはどうか。エネルギー消費を削減するという観点から交通や歩くための屋外空間などの整備ということも考えられる。</p> <p>また、参加という観点からファンドの配当について、例えば地域通貨で配当する。そうすれば、地域内で使用されるため、地域の発展にも寄与する。その他に太陽光パネル等を設置する際の景観への配慮などが考えられる。ただ設置するだけではなく、駅前等の目立つ所に設置するとか、デザイン性に気をつけるとか、景観に配慮し、目立つ所に設置すれば効果的だ。ビジョンを通じて、杉並のブランド価値を上げるにはどのような視点が必要かを意識して書き込むと良いのではないか。</p>
C委員	<p>先程、主体をはっきりさせてとお話ししたが、商店街ぐるみでスマートコミュニティをつくり、商店街が主体となってソフト対策をコーディネートするというような具体例があるとわかりやすい。新築だけではなく既築住宅の省エネ、リフォームも重要なことである。</p> <p>地産地消で地域でお金を回すという話があったが、自分たちの地域でつくったエネルギーは自分たちで使うことができるということを書いた方が良い。</p>
座長	杉並区では、一人暮らしの家庭は多いのか。
事務局	一人暮らしは多い。
座長	<p>一人で親族から離れて暮らしていても、密にかつ機能的に親族と連絡が取れるというのが、これからのスマートハウスではないか。デジタル化する家電の中で最も重要なのはテレビだと思う。テレビがデジタル化され、やり取りが双方向となることにより、親族との連絡媒体になることで、一人でも安心して暮らせるようになる。そうなれば、区の付加価値になる。</p> <p>本日は、杉並区のポイントとして、社会実装、区民参加、キャッシュフロー、商店街活性化、一人でも安心して暮らせる社会インフ</p>

	<p>ラの構築などが挙げられた。今日の議論をもとに何かキーワードをいれて行ってほしい。</p> <p>今後の懇談会の予定はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>3月末にアンケート結果の報告、4月に実施するパブリックコメントを踏まえた報告を5月に予定している。</p>
副座長	<p>再生可能エネルギーをたくさん導入することが杉並区としての夢や目標になりうるのか。そこで、事務局はまちの将来像を災害時に安全であり、普段からも災害に備えることが安全で快適なまちに繋がると整理してある。その他に特別に杉並で出来ることは難しいと思う。ビジョンにいろいろな事を盛り込めると良いが、制限もある。災害対策を柱として書いているのは一つの解であると思う。</p>
座長	<p>たくさん並べても何をやりたいのかわからないので、区民参加、安心安全、キャッシュフローで商店街活性化などキーワードを3つくらいに集中させ、わかりやすく示してはどうか。場所を決めて災害時でも、コジェネで熱電供給、ソーラーシステムで熱供給ができるようにするなど、社会実装することが肝要である。</p>
I 委員	<p>全体像を示したときに杉並らしさを出すのは難しい。市民参加型が杉並区のブランドになると思う。防災はエネルギーだけの話ではない。建物の耐震性や防災拠点の整備、他の災害への備えなどトータルで考える必要がある。住民からすると、バランスの取れたまちづくりと、新しい仕組みを実現しているまちというのが魅力的に映るのではないか。それには、具体的な特区の候補地を決めて、事業者を募集し、1つの形を組み立てる。そこに区民が参加する。そのような新しい取り組みをスタートさせるための準備が必要である。</p> <p>再開発の際に開発される住宅地に特区を設定するなどして、市民参加を進めると良いのではないか。</p>
座長	<p>冒頭に交通が出たが、交通機関の整備について関係はないのか。交通不便地域な地域に交通機関を通し、スマートラインなどはできないのか。</p>
事務局	<p>現状では、鉄道は考えにくい。バスについては環境や福祉の面から検討していくことは考えられる。</p>
副座長	<p>ビジョンを作文することは簡単であるが、実現できるのか、それ</p>

	<p>を目標にして良いのか。夢を語ると同時、リスクを考えるとかなりシビアにやらないといけない。その二つをつなぐためにはどうしたら良いのか。それについて意見を頂きたい。夢と現実を繋ぐものとして、事務局は災害を取り上げているのだと思う。現実的には、杉並で日本の理想的なエネルギー都市を創ることは考えにくい。その中でも新しい試みをできれば区民参加型で発信していきたい。その距離をどのように埋めていったら良いか。今後、議論できると良いと思う。</p>
座長	<p>区民の自発的な行動と行政の政策誘導がリンクしていないと、なかなか上手くいかない。ビジョンがあり、そこに区民参加が描かれ、そのためにはどのような政策誘導が必要かということを検討していく必要がある。ファンドなどは一つの政策誘導といえる。地域にお金を落としてもらおうと活性化に繋がり、分かりやすいインセンティブといえる。</p> <p>本日はたくさんの意見を頂いたので、これをまとめてもらい、次回提示してもらいたい。</p>
H委員	<p>現在、杉並を象徴するような地域で住宅地が開発されている。そのようなところをモデル地区として取り上げて、そのコミュニティの中でどのようなことができるのかを示すとわかりやすいのではないか。賑わいの創出など、まちづくりと絡んだものであるとなお良いと思う。過去に高円寺をモデル地区としてバリアフリー化を行い、普及していった経緯がある。杉並区の特徴的なところをモデル地区として設定し、実施すれば、住民にもわかりやすく、杉並らしさも出てくるのではないかと思う。</p>
F委員	<p>(p.9) 区民への分かりやすい情報提供、自主的な参加の仕組みづくりとあるが、先程話があったように専門的で分かりにくいということがあるので、スマートハウスやスマートコミュニティが実施されているモデル地区があれば、実際に自分の目で確かめることができ、イメージも湧くのではないか。</p>
座長	<p>本日の意見を受けて、次回までにまとめていただきたい。</p>

### (3) その他

区民意見反映の実施方法について事務局が説明を行った。

#### 【説明要旨】

エネルギービジョンの策定にあたっての区民意見反映について、成案に対するパブリックコメント募集の前に、三つの方法により、区民意見を把握していく。

偏りをなるべく少なくするため、無作為抽出による区民意見交換会と区民、事業者アンケート、すべての区民を対象としたアイデア募集の三つ方法で行う。

区民意見交換会をご覧の通り、住所、性別、年代が偏らないよう対象者300名を無作為抽出し、中間のまとめ(案)を事前に確認の上、1月27日(日)午後1時から4時に集まってもらい、「今後、区が行うべきエネルギー施策」についてグループ討議をし、発表していただくものである。(参加者については、去年の基本構想の際の区民意見交換会を参考とし、1割程度を予想している。)

アンケートは、区民は住所別、世帯構成別に無作為抽出、事業者は地域、業種、従業員数が偏らないよう無作為抽出し、それぞれ3,000所に発送し、2月8日までに回答してもらう。

アイデア募集は、全区民を対象に2月15日までに、「再生可能エネルギーの普及・促進」アイデアを募集するものである。

この三つについて3月上旬までにまとめ・集計し、第4回の地域エネルギービジョン懇談会でご報告する予定にしている。

柳井委員から杉並清掃工場の建て替えに関する情報提供、浅岡委員からバス見学会のお知らせがなされた。

次回の第4回杉並区地域エネルギービジョン懇談会は、3月27日(水)18:30からの開催を予定する。